



おおぞら

第203号

2021年7月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

「手話には二つある」

所長 木部 哲也

手話には「日本手話」と「日本語対応手話」という二つがあります。私自身も

日本語対応手話は第二言語ということになります。

勉強で数年前に亀井伸孝著の「手話の世界を訪ねよう」(岩波ジュニア新書)を読んで知りました。「日本語対応手話」は、テレビなどでよく目にする手話ですが、日本語の語順で手話単語を並べたもので、その原型は聞こえる人(聴者)といえます)によって作られました。このような手話は、手と指を使った日本語であり、手指日本語(しゅしにほんご)とも呼ばれています。これに対して「日本手話」は日本語とは別の独立した言語です。「ろう(聾)者」ということばがありますが、これは耳の聞こえない人であると同時に、特に手話を日常言語として用いる人を言います。「日本手話」はろう者の間で自然発生的にできたものです。つまりろう者にとつて、母語(第一言語)は「日本手話」であり、日本語や

日本語対応手話とは、日本語の文法体系をもっていて、日本語とは語順が違います。手の形・位置・動きに意味があるだけでなく、「肩の向き・うなずき・顔の表情・眉や口の動き」などにも文法的な意味があります。これら非手指動作によって、例えば単語を倒置したり、複文構造を作ったりすることが可能になるそうです。どの国にもその国の音声言語に対応する手話と、文法、伝達媒体が異なるろう者手話の、2つの手話が混在しているわけです。こうした知見が公に示されるようになったのは、世界的にも1960年頃からであり、日本においては、「日本手話」が日本語とは異なる統語規則を持った言語であることが知られるようになったのは、さらに遅く、1990年代中頃になってからです。日本で「手話は言語である」と法律で認めら

れたのは2011年の障害者基本法の改正によりです。

周産期領域では10年ほど前から難聴の早期診断のために新生児聴覚スクリーニング検査が行われるようになりました。最初は自費でしたが、2017年から自治体からの助成制度が始まりました。早期発見の後は、補聴器+言語訓練が始まります。その後十分な効果が得られなければ人工内耳埋め込み手術が検討されます。そうやって何とか音声言語を身に着けさせることが大切とされてきました。かつては、「手話を使うと思考が育たなくなる」「手話を使えば日本語が身につかなくなる」という手話に対する誤解、偏見があり、聴者にとっては人工内耳を選び音声言語を獲得することが良いことだというように思われていたわけです。しかしろう者にとっては、それによってもしも手話という自分たちの大事な言語を学ぶ機会を逸するようであれば大変な損失だということになります。かつては、耳鼻科医の間では人工内耳の話をするときに手話について触れていませんでした

が、最近では手話についても情報提供することが、関連学会においてもコンセンサスが得られているようです。

「障害の問題」は人としての標準から逸脱した身体をもつ個人のうちにあるとする考え方(医学モデル)を、障害を持つすべての人々が社会の当たり前の一員として生きられるように社会ができないこと(社会モデル)にあると考える必要があります。私たちは、とかく健常者の視点からみてこちらの方が良いと考えがちですが、実は「障害」だと思っていることが当事者にとっては障害ではないということがあるということです。おおぞら職員は、利用者個人のきめの細かい障害理解に多大なエネルギーを注いでおります。健常者の物差しで考えることの危険性を常に自覚しながら、「障害」をどのようになげ取るのかより深く学ばなければならぬと考えています。



横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

〈特記事項〉

C: 有意な眼瞼運動なし
 B: 盲
 D: 難聴
 U: 両上肢機能全廃
 TLS: 完全閉じ込め状態

〈移動機能〉

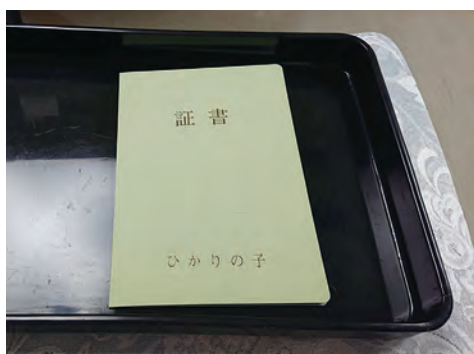
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------

児童発達支援センターひかりの子では、小学校就学前までの子どもを対象として、個々の発達に合わせた療育を行っています。遊びを通して新しい発見がめばえ、興味関心の幅が広がり成長していけるよう個別でじっくり関わることを大切にしています。

ひかりの子では、3月31日に2020年度卒園式を執り行いました。2020年度の卒園児は8名。最短期間の子でも3年、最長の子では5年という長い保育期間をひかりの子に通園して過ごされました。ひかりの子は、子どもが初めて家族から離れて通う場所になりました。登園当初は泣いて職員の間から離れられなかった子も他児と玩具のやりとりができるようになりました。卒園までの期間で体も心も大きく成長しました。ご家族にとっては、卒園児と

ひかりの子

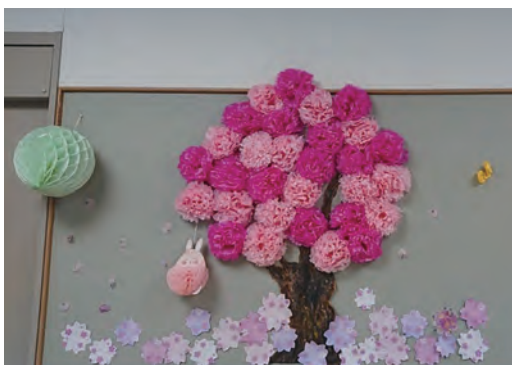
卒園式
松本悦子



ご家族が揃ってお祝いすることを心待ちにされていたかと思えます。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、卒園児1人ずつ卒園証書と記念品をお渡しする式に変更いたしました。参加者は卒園児と付き添いのご家族1名に限定し、ひかりの子職員のみが参列しました。式の始まりには、毎朝朝の会で聴いていた「ひかりの子ソング」をピアノで演奏しました。式を始める前の静けさの中にピアノの音が響きはじめると、笑顔になり表情が明るくなる子、じっとピアノの音に耳を澄ましている子、それぞれで式の始まりを感じていました。その後、職員から卒園児に一言

「ご家族の言葉からは、子どもたちの成長を喜ばれていることやひかりの子が子どもたちとご家族にとって安心して預けられる場所であったことが感じられました。ひかりの子を卒園した子どもたちも、4月から新たな環境での生活を始めています。心も体も更に成長した子どもたちに再び会えることを楽しみにしています。」

例年では、卒園児のご家族にひかりの子での思い出やお子さんへの思いを伝えていただき、ご家族同士が共感される機会がありました。今回はその代わりとして、事前に卒園児のご家族にひかりの子に通園しての想いを書いて頂き、それを冊子にまとめて卒園児のご家族全員にお渡ししました。ご家族の言葉からは、



おおぞら 時の人

おおぞらでは、現場職員以外にも多くの方が様々な形で利用者の生活を支えています。今回紹介するのは、太田信久さんです。太田さんは、聖隷福祉事業団で34年、聖隷おおぞら療育センター（以下おおぞら）で2



主に利用者の学校送迎（入所者、放課後等デイサービス利用者）、入所利用者の受診時等の病院送迎の運転業務を行っています。時々、電球交換や点検等施設内の設備に関する業務も行っています。平日の朝は入所利用者の登校時のドライバーを毎日行っています。病院送迎は日によって

Q.主な仕事内容を教えてください。

年働いています。現場職員ではなかなか対応の難しい病院や学校送迎等の業務を担当しており、おおぞらには必要不可欠な存在です。どのような仕事をされているのかをインタビューしました。



件数は違いますが、多い日は日に7〜8件（14〜16往復）あります。平日の午後は放課後等デイサービスの送迎で、マイクロバスを運転することもあります。

Q.運転は昔から好きでしたか？

はい。プライベートでも公共交通機関よりも自家用車で移動することが多いです。（自家用車はキャンピングカー仕様になっているとのこと）

Q.自家用車で出かけた時の場所で印象に残っていることはありますか？

子どもが小さい時には伊豆や富士へ行っていて、キャンプをしました。キャンピン

グカーで四国巡りをしたこともあります。その時は、淡路島を通過して四国に入り、しまなみ街道を通るルートで移動しました。途中、サービスエリアなどで食事を摂ったり車中泊をしたりしながら、四国グルメ、観光地巡りを楽しみました。新型コロナウイルスの感染症が収束したら、また車で四国を巡りたいですね。

Q.仕事をすることで心がけていることはありますか？

おおぞら周辺の道は坂道や路面の悪いところもあります。そのため、利用者の乗る車椅子が揺れないように気をつけて運転しています。また目的地までは、乗っている利用者にできるだけ揺れや負担がかからないようなゆるやかな道のルートを選ぶようにしています。

利用者の乗っている車椅子や使用する車輪によっても揺れ方が違うので、特に送迎が続くときにはなるべく乗りやすく揺れの少ない車輪を使うようにしています。送迎が重なりそうなきには、利用者二人が乗れるような車輪を使い、負担なく



スムーズに送迎できるように工夫しています。放課後等デイサービスの送迎は、利用人数や使用している車椅子等を考慮し、担当者とは相談しながらその時々合った車輪を選ぶようにしています。

Q.仕事では、どのような時にやりがいを感じますか？

送迎業務は現場では対応できないことを担当して行っています。負担なくスムーズに行えるよう、自分なりに使う車輪や目的地までのルートなどを考えながら送迎をしています。工夫しながら行えていることにやりがいを感じています。3月に導入した予約表のおかげで、よりスムーズに行

えるようになりました。今後この業務が自分の後にも続くように、関係各所と調整しながら体制を整えていきたいです。

窓越し面会を開始しました

6月7日（月）から窓越し面会を開始しました。窓越しではありますが、お子さんやご家族の元気な姿を見て感じていただけたらと思います。



新入・異動 職員紹介

●1号館 藪内明子

3月よりおおぞら療育センター1号館に異動になりました。安全安楽な療養生活を守り、個性を尊重した丁寧なケアを心がけていきたいと思えます。よろしくお願いします。

●2号館 沖村宏美

4月より、聖隷おおぞら療育センターに異動になりました。沖村宏美です。

利用者や家族にとって、安心して療養生活が過ごせることができるように、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

●3号館 漆戸明子

2021年3月より、聖隷三方原病院から異動してきました。漆戸直子です。

利用者の尊厳を尊重した関わりができるように頑張っていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

●3号館 植田小百合

2020年4月、聖隷三方原病院から異動になりました。植田小百合です。利用者の

想いを受け止め、対応出来るように頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

●3号館 兼子若菜

4月から聖隷浜松病院より異動してきました。兼子若菜です。

病院では思うようにゆっくり患者と関わる事が出来ず、葛藤を抱えることが多々ありました。おおぞらでは、利用者の個性を知り、それぞれに合った関わりや看護ができるよう頑張りたいと思えます。よろしくお願いいたします。

●3号館 野末晃広

2021年4月から聖隷三方原病院から異動してきました。野末晃広です。

利用者の個性に合わせた生活が日々送れるような支援をしていきたいと思えます。宜しくお願い致します。

●あさひ 成瀬保那美

4月より、病棟からあさひへ異動となりました。重度障害者との関わりは初めてですが、病棟での経験を活かしながら、利用者のケアや御家族とのコミュニケーション作りをしていきたいと思えます。常に笑顔で対応し、精一

杯頑張ります。

●すばる 三ヶ田侑以

4月から聖隷おおぞら療育センターに入職した、新入職員。三ヶ田侑以です。活動を通して、利用者さんとコミュニケーションを取り、表情が和らぐ瞬間を大事にして、穏やかに生活できるように支援したいです。よろしくお願いいたします。

●あおば 植檀仁南

知識ゼロ、技術ゼロからのスタートで日々勉強の毎日ですが、優しく温かい他職員に支えられて毎日楽しく過ごしています。まずは小さな事からこつこつと、出来ない事より出来た事を数えて精進して参りたいと考えています。

●あおば 宗利真奈

4月からあおばに配属になりました。介護の知識や経験もゼロからのスタートですが、一人ひとりの利用者との時間を大切に、私らしく元気いっぱい頑張っていきたいです。利用者が心地よく生活が送れるよう、出来ることを一つずつ増やして、先輩方のような立派な生活支援員になりたいです。これからよろしくお願いいたします。

●ほくと 小野島あも

4月からほくとに配属になりました。高校の施設実習としておおぞらで実習をさせて頂きました。利用者の笑顔が少しでも多く見られるよう、常に利用者寄り添った介護が提供できるように努力していきます。まだまだ分からないことが多く利用者や職員にご迷惑をおかけすることが沢山あると思いますが、全力で頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



生活支援課 新入紹介4名 よろしくお祈りします!

フェスタおおぞら 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者および参加者の安全を考慮し、今年度の開催を中止させていただきました。

楽しみにしていただいていた皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。



	3月	4月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	33人 (139日)	55人 (268日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	23人 (73日)	27人 (104日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)